

チャイルドヘルス〔第8巻・第5号〕別刷

2005年5月1日発行

発行所 株式 診断と治療社  
会社

---

特集

よくある感染症の基礎知識とその対応

①

麻疹・風疹・おたふくかぜ・水痘・インフルエンザ



わたなべ小児科医院 渡部礼二

この5つの感染症は学校伝染病第二種に指定されていて、保育所や幼稚園などでは次から次へと感染を繰り返します。しかし、これらは予防接種で発症を抑えたり重症化を予防したりすることが可能です。予防接種は感染症から児を防御するとともに、感染症を園に持ち込まない意味合いもあります。

園にこれらの感染症の通報があった場合は、その旨を掲示や葉などで他の保護者に知らせ、その疑いのある児は登園させないようにすることが必要です。

また、園でこれらの感染症を流行させないためにも、法の出席停止期間を守らねばなりません。他の園児達に病気をうつす可能性がある期間が出席停止期間なのです。

施設として、就園時に個々の感染症の罹患歴と予防接種歴の調査は当然ですが、毎年の更新も忘れてはな

りません。1歳になったら麻疹を筆頭にこれらの予防接種を勧めて下さい。この事は保育士などの職員も同様です。職員がこれらの感染症にかかることは、多数の園児達を危険にさらすことになるのです。

麻疹（はしか）(図)

【感染経路】 飛沫感染

【潜伏期】 8 ~ 12 日

【症状・経過】 麻疹は各地で局地的な流行が繰り返されています。麻

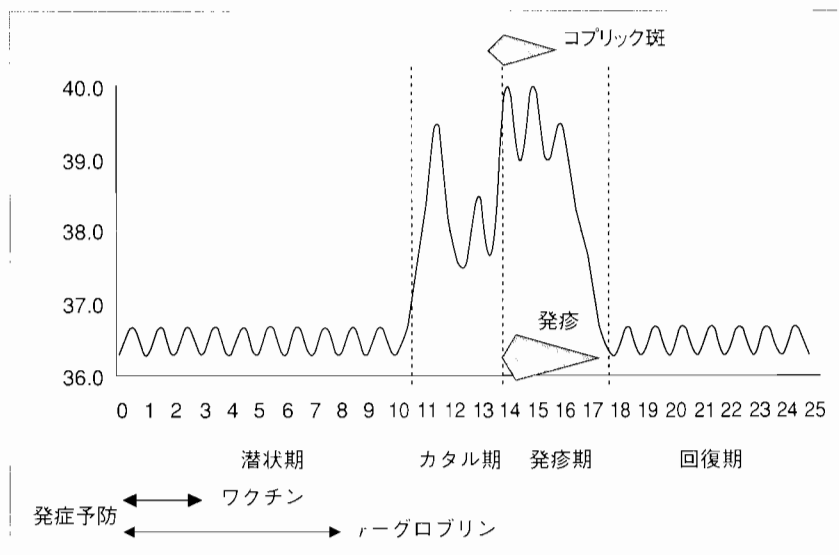


図 麻疹の経過

著者プロフィール 1973年金沢大学医学部卒業。同小児科学教室、石川県立中央病院などを経て、1989年開業。小児科学会専門医。石川はしかゼロ作戦委員会実行委員。

疹は伝染力が強く、重症化しやすい感染症です。麻疹は現在でも1,000～2,000人に一人の割合で死亡しています。麻疹は次の3つの病期を経過します。

○カタル期 発熱・咳・鼻汁などの症状がある3～4日間で、他の風邪とは区別が付きません。このカタル期の終わり頃、頬の粘膜に特有の粘膜疹（コプリック斑）が出現して、発疹の出る前に診断できることがあります。

○発疹期 カタル期の後、発疹の出現と共に再び高熱になる4～5日間で、咳・鼻汁等がひどくなり、目も充血します。

○回復期 熱は下降し、発疹は赤黒く消退していきます。

【合併症】 中耳炎、気管支炎、肺炎、脳炎など

【治療】 症状を和らげる方法（対症療法）だけですが、入院して加療しなければならない場合もしばしばあります。

【予防】 麻疹はワクチンで予防できます。しかし、麻疹はワクチン未接種の児が多くいる保育所・幼稚園を単位に流行します。麻疹が流行している場合は生後6か月から（公費外）、保育所などで集団生活している場合は生後9か月からワクチンの接種（公費外）がお勧めです。ただし、1歳前に接種した場合は抗体のつきにくいことがあるため、1歳過ぎにもう一度公費でワクチンを接種しなければなりません。保育所に

行っていない児でも1歳になったら予防接種を受けるようにして下さい。

予防の第一は麻疹と接触しないことです。麻疹の伝染力の強いカタル期は、他の風邪と区別はできないので、麻疹が発生した園では、熱がある児は休んでもらった方が賢明です。

麻疹に接触してから72時間以内にワクチンを接種すれば、発症を予防できます。麻疹の診断がつく頃は、発症3～4日目であり、その間に麻疹と接触した児にとって、ワクチンで発症を予防できるかできないかは時間との戦いなのです。ワクチン未接種者の児が少しでも早く接種できるよう対処して下さい。

また接触後6日以内にガンマグロブリンの注射で発症を抑えたり症状を軽くしたりすることはできますが、血液製剤であるのでよく話を聞いてからにして下さい。

園に麻疹発生の通報があった時点で、園医や所轄の保健センターに速やかに連絡を取り、対策を協議することも忘れないで下さい。

なお、保育師などの職員が幼児期に麻疹の予防接種をただけの場合、抗体が低くなり麻疹にかかることがあるので、もう一度予防接種をしておくか、抗体価で確認しておいた方がよいでしょう。

【登園基準】 解熱後丸3日を経過してから通園が許可されます。

## 風疹（三日ばしか：麻疹とは別の疾患です）

【感染経路】 飛沫感染

【潜伏期間】 14～23日

【症状・経過】 子どもの場合は発疹だけで、数日で治る通常予後良好な疾患です。発疹は伝染性紅斑（りんご病）などと似かよっているため、診察だけでは風疹と確定できません。風疹の抗体価を調べて確認するか、後日予防接種を受けて下さい。風疹であっても予防接種をしても構いません。特に女児の場合、風疹にかかったつもりで予防接種をしないことのないようにしなければなりません。

【合併症】 血小板減少性紫斑病、脳炎、先天性風疹症候群（胎児）など  
先天性風疹症候群とは妊娠初期に風疹にかかると難聴・白内障・緑内障・先天性心奇形などをもった新生児が生まれてくることを言い、1964年沖縄での風疹流行の際、408名の先天性風疹症候群が報告されました。

園児をもつお母さん方は妊娠可能な年代の人ばかりですから、園での風疹の流行がお母さん方に飛び火し、その胎児に影響を及ぼすかもしれません。最近、風疹の抗体価が低目の妊婦から先天性風疹症候群の児が生まれた報告もあり、ともかく園で風疹が流行しないように、そして家庭に風疹が入り込まないようにしなければなりません。

【治療】対症療法

【予防】予防接種

【登園基準】発疹が消えるまで。

## おたふくかぜ（流行性耳下腺炎、ムンプス）

【感染経路】飛沫感染

【潜伏期間】2～3週間（平均18日）

【症状・経過】片側あるいは両側の唾液腺（耳下腺・顎下腺・舌下腺）が痛みを伴って腫れます。発熱することもあります。ただ、耳下腺などが腫れたからといっておたふくかぜとは限りません。時に他の風邪のウイルスによる耳下腺炎や反復性耳下腺炎などもあります。

【合併症】髄膜炎、難聴、睪炎、思春期以降では睪丸炎や卵巣炎など  
難聴は高度で治りにくく、従来から言われているよりもずっと多く発生していると推定され、現在小児科医の1グループで大規模な調査がなされています。

【治療法】対症療法。

【予防】難聴を予防する為にも、幼児期に予防接種（任意）をする事が勧められます。

【登園基準】耳下腺が腫れている間の登園はできません。2週間かかることもあります。

## 水痘（みずぼうそう）

【感染経路】飛沫感染、接触感染

【潜伏期】14～16日

【症状・経過】水痘は伝染力が強

く、種々の時期の発疹（発疹→水疱→かさぶた）が混在するのが特徴です。発疹は頭の髪の毛の生えている所や、肛門、外陰部、陰囊、口の中の粘膜にも出ることがあります。発熱することもあります。

【合併症】とびひ（伝染性膿痂疹）、肺炎、無菌性髄膜炎、小脳失調、脳炎など

【予防】水痘の予防接種（任意）をしても、1～2割位水痘を発症することがありますが、一般的に軽く経過します。また、麻疹と同じ様に接触後72時間以内にワクチンを接種することで、発症を防止したり経過を軽くしたりすることができます。

園などでは水痘の発症があった14日目前後から、他の園児に注意して下さい。発疹の数は半日でも結構増えます。

【治療】かゆみ止めの軟膏を使います。また、症状や経過を軽くするために早期に抗ウイルス剤を使用する場合もあります。

【登園基準】すべての発疹が痂皮化するまでで、約1週間かかります。

## インフルエンザ

【感染経路】飛沫感染

【潜伏期】1～3日

【症状・経過】毎年程度の差はあるものの、冬から初春にかけ流行し、時に複数の型のインフルエンザが流行することもあります。

症状は咳、鼻水、発熱などでイン

フルエンザ特有のものがなく、他の風邪と区別が付きません。インフルエンザは2～3日間の発熱後、一旦1日位熱が下がり再び発熱することがありますが、4～7日位熱が続きます。

鼻粘膜の拭い液や吸引液の検査でインフルエンザを診断しますが、発症半日はウイルス量が少なくて反応が出ない場合があります。

【合併症】中耳炎、肺炎、脳症など

【治療】抗ウイルス剤を発病48時間以内に使用すると発熱期間を短くする事ができます。最近その抗ウイルス剤使用中に耐性ウイルスが出現すると、一旦熱が下がっても再び発熱のある事が分かってきました。

【予防】一般的な風邪の予防の留意点の他に、インフルエンザウイルスは湿度に弱い性質があり、部屋を適度に加湿しておくことも必要です。また、咳やくしゃみが付着したものに手が触れ伝播するので、手洗いを励行することも大切です。

インフルエンザワクチンは確実に発症を阻止する効果は今のところありません。しかし、予防接種は幼児にもインフルエンザを発症する率を下げ、発熱の程度を軽くすることが分かってきました。そのため合併症による入院や死亡を減らすと考えられています。予防接種（任意）は生後6か月以上から接種できます。

インフルエンザの流行期は、発熱している児は診断されていなくても

休んでもらった方がよいでしょう。

【登園基準】解熱した後も数日間  
はウイルスの排泄が続いているの  
で、熱のないことを丸2日間確認し  
てから登園できます。

参考文献

- 1) CM Hale, JA Polder (藤田直久他  
訳)：子どもの健康と安全を守るた  
めのABC～米国CDCによるガイ  
ドライン～、メディカ出版、1999
- 2) 日本医師会(編)：改訂保育所・幼  
稚園児の保健、第一法規出版、2000

- 3) 麻疹研究班「日本における麻疹対応  
指針策定グループ」(主任研究者：  
高山直秀)：日本における麻疹対応  
指針、平成14年度厚生科学研究費  
補助金「成人麻疹の実態把握と今後  
の麻疹対策の方向性に関する研究」

## インフォ メーション

現役の女性小児科医の体験から生まれた育児に効果的なアド  
バイス集。

これだけは知っておきたい育児のポイントとして育児中のす  
べてのお母さんにお勧めします。

「もし、こんなことをちょっと知っていれば、あわてなくて  
もよかったのにとか、あるいは、これだけは小児科の基本とし  
て、覚えておいてもらいたい、ということを中心にまとめてみ  
たつもりです。不安がちよっぴり減って、お母さんたちの笑顔  
がちよっぴり増えて、大きな未来のある子どもたちのために、  
子育てがちよっぴり楽になることを心から願っています」(著  
者より)

- 小林真澄(こばやし ますみ) 著
- 文芸社発行(東京都新宿区新宿1-10-1 TEL03-5369-2299)
- 四六判/並製/116頁
- 定価1,260円(税込)
- 小林真澄

1957年東京都に生まれる。1984年東京女子医科大学卒業、同  
年4月、東京女子医科大学第二病院小児科入局。現在、朝霞  
台総合病院小児科勤務。小児科専門医。医学博士。

- もくじ  
 裙子へ/初めての当直/発熱とかかりつけ医/予防接種/突  
然死/母乳と育児/サマーキャンプ/心理相談/誤飲/授乳  
指導/子どもと寝/子どもの自主性/子どもの嘔吐/抗生物  
質/アトピー/熱性けいれん/虐待/喘息とお薬/発達と乳  
児健診/子どものおけいこ
- はじめに  
 最近、少子化が叫ばれる中、子どもをめぐる痛ましい事件が  
多くなり、原因の追究やその対処が取り沙汰されています。そ

## 好評新刊図書「ママになった あなたへ—小児科だより—」

して一方、小児医療の現場では、小児科医の不足や救急医療体  
制の不備に問題が山積みです。かつて「子どもは未来である」  
とおっしゃった先生がいらっしゃいましたが、その子どもたち  
の未来に暗い影を感じている人も少ないかもしれません。その  
ような中で、私は小児科医として一般の診療の場で子どもたち  
やお母さんたちと接してきました。特に最近、子育て支援にも  
関わるようになり、不安と悩みを抱えながら、毎日子育てに奮  
闘している若いお母さんたちと会い、小児科医として少しでも  
何か役に立つ情報をあげられる方法はないかと考えていまし  
た。世に育児書はいくらもあります。また育児雑誌の類もたく  
さん出ています。しかし、育児書を初めから終わりまできちん  
と読む人は少ないと思いますし、読みにくいという意見もよく  
聞かれました。雑誌やインターネットも情報が多すぎてどう選  
択していいか、わからない状況があるようです。

軽い読み物として読んでいくうちに、日常の子育てについて  
や子どもの病気、あるいは小児科とはこういうものかというよ  
うなことの基本的な部分が少  
しでも理解していただけたら  
いいなあという気持ちを込め  
て、この本を書きました。

ここに書かれていること  
は、フィクションの様式をと  
っていますが、エピソードは  
すべて私が実際体験してきた  
ことばかりです。少しでも子  
育てにがんばっているお母さ  
んたちのお役に立てれば幸い  
です。(はじめに原文)



これだけは知っておきたい  
育児のポイント。

現役の女性小児科医の体験から生まれた効果的なアドバイス集。  
育児中のすべてのお母さんにお勧めします。

文芸社刊 定価1,260円(税込)